

令和3年度 第2回徳島県G I G Aスクール構想推進本部

次 第

日時 令和3年12月24日(金)
午前10時から午前11時30分まで

方法 Web会議

(主会場) 徳島県庁 9階 教育委員室
徳島市万代町1丁目1番地

(第2会場) 徳島県立総合教育センター
4階 プレゼンテーション室
板野郡板野町犬伏東谷1-7

1 開会

2 開会挨拶

3 協議

(1) 各部会からの報告

(2) その他

4 閉会挨拶

5 閉会

<配布物一覧>

- ・次第,出席者名簿
- ・部会協議の実施概要
- ・【報告1】小学校部会
- ・【報告2】中学校部会
- ・【報告3】高等学校学校部会
- ・【報告4】特別支援学校学校部会
- ・【報告5】不登校児童生徒学びの支援検討部会
- ・【資料1】ICTスキル習得体系表
- ・【資料2】重点目標に沿った事例(小学校)
- ・【資料3】重点目標に沿った事例(中学校)
- ・【資料4】重点目標に沿った事例(高等学校)
- ・【資料5】不登校児童生徒への支援の取組状況調査

令和3年度 第2回徳島県GIGAスクール構想推進本部 出席者名簿

(敬称略)

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 教育長	榊 浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	
徳島県教育委員会 副教育長	臼杵 一浩	
徳島県小学校長会 会長	安田 哲也	
徳島県中学校長会 会長 美馬市立脇町中学校 校長	(杉本 恭介) 横畠 道彦	(欠席) 代理出席
徳島県高等学校長協会 会長	儀宝 修	
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	上野 清文	
徳島県教育委員会 教育次長(県立学校担当)	藤本 和史	
徳島県教育委員会 教育次長(小中学校担当)	藤田 完	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 課長	向井 佳子	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	森下 稲子	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	藤井 宏孝	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 課長	濱口 和弥	

事務局

徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課	班長 黒田 收 班長 橋本 史朗 班長 平田 義明
--------------------------	---------------------------------

部会協議の実施概要

1 進捗状況（各発達段階ごとの状況）

(1) 小中高等学校部会

ア 取組内容

- ・学校計画訪問での指導・助言
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援
- ・GIGAスクールサポートサイトでの情報発信

イ 重点目標達成に向けた現在の状況

小学校

タブレットを日常的に活用した学びの推進

	児童	教職員
1・2年	・全項目について進捗状況は良好である。	・最も基本的な使い方から丁寧な指導が展開されている。
3・4年	・全項目について進捗状況は良好である。	・この段階で重要となるタイピングの指導に重点的に取り組んでいる。
5・6年	・概ね良好であるが、個人差が生じつつある。	・情報モラルの指導に熱心に取り組んでいる。 ・着実な定着に向けて研究を進めている。

中学校

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善 ～「どんどん」「みんなで」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

生徒	教職員
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な使い方は概ね習得できている。 ・問題解決・探究における情報活用面で向上が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用推進に向けた機運が高まりつつある。 ・各教科等での活用方法について、試行錯誤を重ねている。

高等学校

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

生徒	教職員
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に一定のスキルを習得している。 ・生徒間の差が開きつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等での活用が進んでいる。 ・幅広いスキルレベルの生徒への対応に工夫が必要である。

ウ 持ち帰りの状況について

生徒	教職員
・持ち帰りが進んでいない。また、活用頻度が低い場合は、利用する時間が短く、「慣れる」という部分が不足している。	・破損や学習目的以外の不適切な利用への警戒感が強く、授業での活用・持ち帰りを推進できていない。

(2) 特別支援学校部会（進行中）

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進

～みんなで「I（いつも）C（ちょっと）T（たのしい）」活用を～

ア 校内ミニ研修を実施

各校で校内でのアプリをはじめとした活用方法について研究

イ 各校の1人1台端末等を用いた特色ある実践

ウ 計画訪問，サポート事業での個別の支援

(3) 不登校児童生徒の学びの支援検討部会（進行中）

ア モデル校での聴き取り調査

イ 全校対象調査による事例収集

ウ 活用事例集作成に向けた準備

(4) 総務部会（進行中）

2 課題克服に向けた取組

[年度当初からの取組]

学校計画訪問で、教科等でのICTを効果的に活用した授業改善・学力向上に向けた指導・助言を行う。

GIGAスクール構想サポート事業で、各教科指導を充実させるためのアプリ操作等についての校内研修支援を行う。

GIGAスクールサポータの配置により、県立学校での1人1台端末の運用を支援する。

ヘルプデスクにより、電話での各学校の課題に応じた個別対応を行う。

[第1回推進本部会以降の取組]

徳島県GIGAスクール実践動画コンテストにより、動画による好事例を収集し共有する。

学校ホームページでのGIGAスクール構想についての積極的な情報発信により、家庭に向けたGIGAスクールについての啓発と児童生徒のICT活用に向けた意欲の向上を図る。

徳島県GIGAスクールサポートサイトでの情報提供を行う。

不登校児童生徒へのICTを活用した「心のサポート的な支援」や「学びの支援」について、各学校の取組状況を調査する。

特別支援学校「校内ミニ研修」実施・報告書収集と小中高等学校へ「校内研修事例」の作成依頼により、校内組織の充実と教職員スキルアップのための好事例の共有を図る。

3 全体的に見えてきた課題

校内でのGIGAスクール構想の組織的な推進 各教科等での効果的な活用事例の横展開 児童生徒への情報モラル教育のより一層の推進 持ち帰りのより一層の推進
--

4 今後の取組（年度末に向けた取組）

- 1月
- ・担当者会等（小中高特）の開催による周知
 - ・特別支援学校「校内ミニ研修」、小中高等学校へ「校内研修事例」の事例収集による好事例の共有、校内組織の充実
 - ・GIGAスクールサポートサイトでの情報発信による各教科等での活用の充実、持ち帰りの推進
 - ・マスコミへの積極的情報提供によるGIGAスクールに関する広報、家庭への啓発の推進
 - ・GIGAスクールサポート事業の内容充実による活用推進
 - ・徳島県PTA連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県GIGAスクール構想の趣旨や概要を周知
- 2月
- ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラム開催（先進校の取組事例発表）による啓発
 - ・不登校児童生徒への支援についての活用事例集発行による共有
- 3月
- ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携強化
 - ・教育DX普及動画によるGIGAスクールに関する広報・啓発
 - ・情報モラル教育デジタルコンテンツによる、情報モラル教育のより一層の推進

小学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月8日(月)午前10時から午前11時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 小学校部会員11名(欠席1名)

2 重点目標

タブレットを日常的に活用した学びの推進

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

多くの学校でICTを活用した授業が日常的に実施されるようになり、各発達段階に応じた児童の操作技能が高まっている。今後も、授業支援アプリケーションソフトを活用し、課題を配布・回収したり、学習者用デジタル教科書を活用し、書き込みや音声や動画の再生・録音をさせたりするなどICTの特性を生かした授業を実践する。

(イ)カメラ機能活用

児童は、静止画や動画で観察・実験を記録するなど、各発達段階に応じてカメラ機能を活用することができている。今後は、ワークシートやスライド上にある静止画のサイズ変更やトリミング、動画の切り貼りなど、自分の思いが伝わるように編集加工できるように指導していく。

(ウ)文字入力

低学年児童は、パスワードを入力する際に、ローマ字入力することができている。

中・高学年児童は、キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができている。

自分の考えや学習のまとめを入力する際、タイピング速度や正確性に差がある。

各教科学習においてタイピング入力する活動を増やすとともに、タイピング練習アプリケーションに取り組みさせることで技能を高めていく。低学年児童にはキーボードにシールを貼ったり、中学年児童には、ローマ字入力表を配ったりしてサポートする。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

写真やファイルの保存，データの呼び出し方を理解している。

蓄積したデータを有効活用するための分類整理に課題がある。

過去のデータを素早く呼び出せるよう，日付や単元名など内容がすぐに分かるタイトルをつけるよう，低学年段階から指導する。

(イ)プレゼンテーション力

自分の考えを相手に伝えるスキルに課題がある。

各教科学習において，表現活動や言語活動を充実させるとともに，静止画や動画，プログラミングアプリケーションなどを表現ツールとして，資料をもとに発表する活動を取り入れる。

(ウ)情報収集力

調べ学習など，頻繁にインターネット検索を利用できているので，高学年になると課題解決に必要な情報を素早く検索，収集することができている。今後も，社会科の資料検索や総合的な学習の時間を中心にインターネット検索で目的に応じた情報を見つけられるよう指導する。

(エ)コミュニケーション力

オンライン上でのコミュニケーション力に課題がある。

Web会議アプリを用いて，外部講師を招いたり，オンライン上で他校と協働学習を行ったりする活動を取り入れた授業を実施する。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

約束やきまり，友達の気持ちを考えたやりとりを意識してコンピュータ等を使うことができている。

社会や様々な人々への影響を考慮してコンピュータ等を使うという意識が希薄である。

これまでは高学年児童を対象とし，SNS等でトラブルが起こってからの指導が中心であったが，低学年から学級活動の時間や普段の授業の中で必要に応じて適宜，指導することで情報社会の「光と影」の知識を習得させる。

(イ)情報に関する権利

人の考えや作品と同じように，自分や他者（身近な存在）の情報を大切にしようという態度が育っている。

インターネット上の情報にも権利があることに気付いていない。

著作権や肖像権などの知識を定着させるとともに，図書やインターネット上で検索した情報を資料として活用する際には，出典名を記載するなど利用上の決まりを守ることを徹底する。

(ウ)危険回避

低中学年児童は，使い方のルールを守ってコンピュータ等を使うことができる。

高学年になると，保護者の管理下から離れて活用する機会が増える。

危険だから使わせないのではなく，使っていく中で様々な危険性に気付かせる。さらに正しい使い方について考える場面を設け，自分で判断できるように指導する。

(エ)情報の取り扱い

自他の情報に関する取り扱いに注意することができる。

インターネット上の情報を簡単に信じてしまう児童が多い。

調べ学習をする際に，特定の情報からではなく，アナログを含めた情報を収集し比較することで，その正当性について吟味するよう指導する。

(オ)健康面への配慮

低中学年は，使用時間の決まりを守ってコンピュータ等を使うことができる。

高学年になるとゲームやインターネットを長時間利用する児童が増える。

保健便り等で定期的に，健康に関する注意やペアレントコントロールの必要性について啓発していく。

(カ)情報セキュリティ

低学年からパスワードや個人情報について指導するなどセキュリティに関する指導が行われている。

ダウンロードの危険性や，ウイルス感染の原因について基礎的知識を身に付けさせる必要がある。

徳島県情報モラル教育サポートサイトやNHK for School等の動画教材を活用して，発達段階に応じた指導を行う。また，巧妙になる手口に対して研修等で教職員の情報セキュリティ意識も高める。

4 端末の持ち帰り状況について

有事の際のみならず，日常的に持ち帰り，学習に活用するのがGIGAスクール構想の目的である。持ち帰りに関する課題の解決案や家庭での端末利用に関する先進的な取組を紹介していく。

(例)

- ・端末のデスクトップや指定のフォルダに宿題データを保存すればインターネットにつながらなくても課題に取り組める。登校してから学校のWi-Fiに接続して提出する。
- ・ドリル教材の活用だけでなく，デジタル日記や調べ学習など家庭学習の内容を工夫する。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

小学校は、研究指定校の公開授業には、毎回多くの先生方に参観いただいている。また、ICT活用についての研修に熱心に取り組んでいる学校も多く「タブレットを日常的に活用した学び」の達成に近づいている。

ただし、児童のスキル差が広がりつつあることに注意する必要があるほか、情報モラルの着実な定着に向けて研究を進める必要がある。

今後は、先進的な取組事例を収集し、G I G Aスクールサポートサイトにおいて公開するとともに、小学校教育研究会とも連携しながら、各教科におけるICT活用法や指導法について研究を進めていく。

(今後の予定)

- 1月
 - ・積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・県教委事業研究指定校やG I G Aスクール推進本部小学校部会委員所属校の授業動画のG I G Aスクールサポートサイトへの公開
内容：各教科学習での活用，プログラミング，情報モラル教育
 - ・小学校教育研究会理事会にてG I G Aスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・G I G Aスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoomの活用，各教科学習での活用等
 - ・徳島県P T A連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県G I G Aスクール構想の趣旨や概要を周知

- 2月
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラムでの先進校の取組事例発表
 - ・小教研情報教育部会理事会との次年度の研究主題についての協議

- 3月
 - ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携の強化
内容：環境整備・活用推進に向けた協議

中学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月8日(月)午前10時から午前11時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 中学校部会員11名(全員出席)

2 重点目標

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善
～「どんどん」「みんな」でタブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

アプリケーション活用スキルはおおむね習得できている。

生徒が試行錯誤することにより操作方法に慣れる必要がある。

各教科で、MetaMoJiClassRoom等のアプリケーションについて、生徒が試したり教え合ったりする機会を作り、操作に慣れる時間を確保する。

(イ)カメラ機能活用

基本的なカメラ機能の操作はできている。写真や動画を使う機会は多い。

最適なファイル形式やファイルサイズを選択して記録するまでは至っていない。

目的に応じた写真や動画等の編集・記録の方法を指導し、身に付けさせる。

(ウ)文字入力

簡単な文字入力のスキルは習得できている。

自ら吟味した言葉で分かりやすく入力するという部分に課題がある。

教科等の課題を解決する中で、まとめや感想などをタイピングする機会を増やす。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

課題解決に向けて考えたことを論理的に表現するスキルの習得は十分に身に付いていない。

教科等における「探究的な学習」の場面を増やす。

(イ)プレゼンテーション力

ICTを使った発表の場面は増えている。

ユニバーサルデザインや聞き手に配慮したプレゼンテーション力の向上が必要である。

全ての教科で発表する場面を増やして，分かりやすいプレゼンテーションが作成できるように指導していく。

(ウ)情報収集力

教科等の特性に応じた情報の検索・収集はできている。

効率的な検索方法や，目的に応じた情報収集が十分にできていない。

調べ学習などの際に，効率的な検索方法・目的に応じた情報収集ができているかを確認し，適切に見直す機会を設ける。

(エ)コミュニケーション力

ICTを利用した様々な場面での協働作業は少しずつ広まっている。

教科等での活用頻度が低い。活用方法が限定されている。

英語や，総合・人権学習などで，校内外でのオンラインでのやりとりを行うなど，一緒に協働で作業する機会を設ける。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

ネットワーク上におけるルール等の重要性には一定の理解がある。

ネットワーク上での責任について，さらに強い自覚が必要である。

ネットワーク上での行動に伴う責任を自覚させるため，人権教育主事・生徒指導主事等とも連携しながら，組織的に情報モラル教育を進める。

(イ)情報に関する権利

自他の権利を大切にしたいICT活用は少しずつ進んでいる。

著作権や知的財産権などの権利について，中学校の発達段階に応じた学びを深めなければならない。

著作権や知的財産権について，各教科等で資料等を扱う際に関連付けて，指導していく。

(ウ)危険回避

危険性を判断できる基礎的な知識・技術はある。

より実践的な力を付けていく必要がある。

日常で起こりうる身近な問題について，話し合う機会を設け，自ら危険を回避できる力を育てていく。

(エ)情報の取り扱い

情報の取り扱いについての配慮が十分ではなく，情報が社会にどのように影響を及ぼしているかを考え，適切に利用できている生徒は少ない。

新聞記事などの身近な事例を取り上げるなど，情報が社会に及ぼす影響について考える機会を適切に設ける。

(オ)健康面への配慮

健康を害する行動を自制することへの注意は促してはいるものの，画面を見る姿勢や時間等に注意する必要がある。

日常での様子や検診結果の推移などについて養護教諭との情報交換を密にし，生徒に向けて定期的に注意を促すことができるようにする。

(カ)情報セキュリティ

ＩＤやパスワードの管理などの日常でよく使う知識は身に付いている。

日常において、情報セキュリティを意識して適切に行動できる生徒は少ない。

これまでに学んできた知識が生かされるよう、端末活用の調べ学習等の場面で、機会のあるごとに指導していく。

4 持ち帰りについての課題と今後の取組

- ・準備はしているものの、実施できていない学校がある。原因としては、情報モラル・情報セキュリティ上の不安や問題があげられる。
- ・市町村教育委員会，学校を通じて，家庭への理解を求める必要があり，保護者の不安解消とともに，家庭で活用することの利点を積極的に呼びかけていく。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

中学校部会では，重点目標の「どんどん」「みんな」使っていくというスタートのもと，タブレット活用の取組を進めている。

今年度作成された「ICTスキル習得体系表」に基づき，卒業までに中学校で求められるスキル習得を進めていくため，中学校全体の活用頻度を増やし，レベルアップを図る中で，教科等における学びの向上にもしっかりとつながれるように，今後一層の取組を推進していく必要がある。

また，小学校部会と連携し，スキルアップにつながるような好事例の情報提供や横展開を図るとともに市町村と連携をとって推進していきたい。

(今後の予定)

- 1月
 - ・積極的な職員研修の推奨（校内研修事例の作成依頼）
 - ・県教委事業研究指定校等の研究（公開）授業をGIGAスクールサポートサイトに公開する。
内容：各教科学習での活用，校内での活用推進の様子
 - ・第2回中学校担当者意見交換会の開催
GIGAスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・GIGAスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容：MetaMoJiClassRoomの活用，各教科学習での活用等
 - ・徳島県PTA連合会家庭教育研修会にて保護者に徳島県GIGAスクール構想の趣旨や概要を周知
- 2月
 - ・中学校教育研究会理事会にてGIGAスクールサポートサイトの積極的活用について周知
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラムでの先進校の取組事例発表
- 3月
 - ・市町村教育委員会担当者との連絡会による連携の強化
内容：環境整備・活用推進に向けた協議

高等学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月9日(火)午後1時から午後2時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 高等学校部会員8名(全員出席)

2 重点目標

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

3 重点目標達成に向けた現在の状況

(1) 基本的な操作等

(ア)アプリケーション操作

基本的なアプリ(ワープロ・表計算・プレゼン等)についてはある程度使えている。

授業支援アプリについては、各学校により活用頻度に大きく違いがある。Teams, MetaMoJiClassRoomで協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(イ)カメラ機能活用

映像の編集や加工までを目標としているため、習得には時間を要している。まずWindowsの標準機能のVideo Editorを利用する。

(ウ)文字入力

ローマ字入力には慣れているが、キーの割付位置などの端末に依存する部分については十分とはいえない。また情報を整理しながらの入力も十分とはいえない。

意見を整理しながらのレポート作成や、受け手を意識してのメール送信などを行う。

(2) 問題解決・探究における情報活用

(ア)分類整理・まとめる力

フォルダの構造や管理については理解が進んでいる。

モデル化やシミュレーションの理解までを目標としているため、習得には時間を要している。

ビッグデータの活用例などを紹介し、重要性に気付かせる工夫をする。

(イ)プレゼンテーション力

ICT活用の中では取り組みやすく、スキルも順調に習得されてきている。今後も、総合的な探究の時間や、課題研究、ホームルーム活動で発表を繰り返すことにより、さらにスキルを上げる。

(ウ)情報収集力

端末の活用の中でも実践しやすい項目であり，スキルも順調に習得されてきている。

情報の信頼性の判断が不十分である。

簡単な調べ学習などにどんどん取り組みながら，情報の妥当性や信頼性を判断するスキルの習得を目指す。

(エ)コミュニケーション力

様々なアプリの共有機能を利用し，複数の生徒で成果物を作る活動はかなり広まっており，スキルも順調に習得されてきている。コロナ禍においては，ICTを利用した活動は非常に有効な手段になるので，今後も今まで以上に協働作業を盛り込んだ授業を行う。

(3) 情報モラル・情報セキュリティ

(ア)情報社会の倫理

ネット社会における基本的原理を理解し，情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断ができることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

一般的なモラルの延長に情報モラルもあることに留意し，指導を進める。

(イ)情報に関する権利

情報に関する法規や制度及びマナー，個人の果たす役割や責任などについての理解は進んできている。今後は，生徒自身の問題として捉え，議論できるように，身近な事例を紹介する。

(ウ)危険回避

インターネットの危険性についてはある程度理解できているようである。

今後は，学んできた知識を適切な行動につなげるとともに，他者を啓発していけるよう，議論しながら考えを深めさせる。

(エ)情報の取り扱い

個人情報等の取り扱いについては理解が進んでいる。

情報デザインの考え方や，その方法に基づいて表現された情報を評価・改善することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

芸術・数学・情報などで，普段目にする可視化された情報のデザインについて考える授業を行う。

(オ)健康面への配慮

自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣について，その意義を理解することを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

自らの心身と向き合いながら，端末使用時間の管理や適正な使用を常に意識できるように指導する。

(カ)情報セキュリティ

情報セキュリティを確保するための方法や技術についての理解と，それらの利用を考えることを目標としており，理解は進んでいるが十分とは言えない。

様々な情報に触れる機会が増えてきており、セキュリティ面の意識の向上は急務である。現在端末に導入されているセキュリティの例を挙げながら具体的に指導する。

4 端末の持ち帰り状況

- ・高等学校ではすべての学校が一度以上持ち帰りをさせている。生徒の申し出により自由に持ち帰らせている学校もある。ICTのスキル向上のためには、やはり「慣れる」という要素が重要なので、持ち帰りをすすめることは非常に重要である。
- ・自宅での設定がうまくいかない、自宅から学校に持って帰ってくるとうまく学校のネットワークにつながらない等の問題がある。このような基本的な問題を解決することで、より自宅での利用が進むと思われる。また、持ち帰りさせるためにバッグなどを学校で用意したところも少なくない。このような事例も紹介しながら推進していく。
- ・高等学校は生徒の通学範囲が広く、持ち帰りが通学の大きな負担となることがある。持ち帰りをすすめることはもちろんのこと、せっきくのクラウドサービスなので、自宅にある端末やスマートフォンでアクセスして使うことも想定して、利用を促すことも大切である。

5 重点目標達成に向けた今後の取組

今年度「学校全体での組織的推進」を進めることを重点目標に挙げており、情報担当者や少数のスキルが高い教職員だけではなく、全教職員が少しずつでも着実にICTを利用した授業や特別活動に取り組む状態を目指している。

しかしながら、教職員のICTスキルの不足や、マシントラブルなどで活用に積極的になれない等の理由で不十分な状況にあり、年度末に向けて一層の取組を推進していく必要がある。生徒のスキルは予想より高く、機会を増やせば比較的早く効果的な使い方を習得すると考えられる。

今後は、職員研修等を継続的に行ってもらうことで全体の底上げを図り、活用頻度を上げていくとともに、好事例の情報提供をすることで活用イメージを持ちやすくし、教職員の活用頻度を上げていく。

(今後の予定)

- 1月
 - ・積極的な職員研修の推奨(校内研修事例の作成依頼)
 - ・第2回高等学校担当者会の実施
内容: 端末の年度更新, アカウムの年度更新, 不具合・故障対応の状況, GIGAスクールサポートサイトの活用周知
 - ・GIGAスクールサポートサイトで, 好事例, 端末のトラブル対応法, 便利な使い方等についての情報発信
 - ・GIGAスクールサポート事業の実施による操作スキルと指導力の向上
内容: MetaMoJiClassRoom, MS365の活用, 各教科学習での活用等
- 2月
 - ・徳島県「教育の情報化」推進フォーラム高等学校部会で, 端末を使った先進的な取組事例を発表してもらい, 参加者で協議する。

特別支援学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和3年11月8日(月)午後3時30分から午後4時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 特別支援学校部会員7名(全員出席)

2 重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～

3 校内ミニ研修の実施状況について

(1) 特別支援学校11校で実施

ア 実施期間(令和3年9月～令和3年12月)

イ 実施の流れ

各学校へ依頼

各学校での実践

校内ミニ研修(様式1)

授業実践

評価

事務局で取りまとめ

ウ 校内ミニ研修の例

(学部会の後半10分で実施)

Plan(計画)

- ・学習グループ・クラス等で話し合いを実施

- ・端末を準備して

- ・アプリケーション使用

- ・様式1の「見込める効果」「使用に当たって工夫した点」について話し合いを実施

Do(実施)

- ・担当授業等でアプリケーションを使った授業実践

Check(確認)

- ・様式1の「実際の効果」を報告後に協議

- ・アプリケーションの有用性について検討する

課題や困った点も貴重な情報として扱う。

校内ミニ研修(計画)	
研修の目的	本学部の研修の目的を明らかにし、研修の進め方を協議する。
実施の場	本学部の研修の場を明らかにし、研修の進め方を協議する。
実施の時間	1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者 1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者
実施の場所	
実施の担当者	
実施の趣旨	研修の趣旨を明らかにし、研修の進め方を協議する。
実施の成果	
実施の課題	
研修の進め方	1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者 1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者
研修の進め方	1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者 1) 研修時間 2) 研修場所 3) 研修担当者

(2) 主なアプリケーション

視覚障がい

・「のじぎく」シンプル デイジープレイヤー，UDブラウザ，タッチ！あそべビー
聴覚障がい

・MetaMoJi Classroom，Microsoft Teams，Microsoft Word

知的障がい

・コバリテ・コミュニケーション，ワークWatch

・かぞえ10，あわせ10，あすけん ダイエット記録，とびだす動物タッチ

肢体不自由

・かなトーク，絵カードタイマー，えこみゆ，アイビスペイントX

病弱

・キラキラお絵かき for iPad，効果音&BGM集，GarageBand，Time Timer

(3) 今後の対応について

各校の成果を徳島県GIGAスクールサポートサイトに公開し，情報共有

実際に使用効果の高かったアプリケーションを特別支援学校11校の校内研修で紹介

4 各校の「1人1台端末」等を用いた特色ある実践について

(1) 特別支援学校3校が隣接する病院と遠隔教育を実施

板野支援学校，鴨島支援学校，ひのみね支援学校

日時：通年を通して実施

内容：Web会議システム会議システムを用いた学習活動

場所：各学部教室と病棟

(2) 池田支援学校美馬分校がSDGsの取組を地域へ発信

池田支援学校美馬分校

日時：令和3年10月14日(木)，10月28日(木)

内容：一般県民へ生徒がタブレット端末やプレゼンテーションソフト
を用いて，仕事内容の紹介やカフェの疑似体験等を実施

場所：みまカフェと一般県民の自宅等

(3) Zoomで各特別支援学校をつなぎ，交流活動を促進

特別支援学校ゆめチャレンジフェスティバル

日時：令和3年12月15日(水) 13:00～16:00

内容：特別支援学校中学部や中学校特別支援学級の生徒へ，
特別支援学校の取組(働こう宣言，技能検定等)を紹介

場所：徳島県立総合教育センターと各特別支援学校，中学校
とくしまスポーツ交流大会

日時：令和4年1月19日(水) 10:30～15:00

内容：四国4県の特別支援学校について，Zoomで各校をつなぎ，
ターゲットポッチャ大会を実施

場所：北島北公園総合体育館と四国4県の各特別支援学校

不登校児童生徒の学びの支援検討部会 報告資料

1 部会の方向性

テーマ「つながる」(学校・友だち・担任・教室etcとの「つながり」)
(R2第1回部会より)

「つながる」を大きなテーマとして、「心のサポート的な支援」や「学びの支援」について、今まで行ってきた不登校等の児童生徒への支援に培った見識に基づき、よりきめ細やかな支援の充実を図っていく。

2 徳島県GIGAスクール構想を活用した不登校等の児童生徒への支援事例 (R2第1回部会より)

- (1) 家庭訪問の代わりにタブレットで、朝または夕方等に児童生徒や保護者と連絡をとる。(まずは、つながること、顔を見ること、声をかけること)
- (2) 担任からの連絡やクラスの様子をタブレットを通して伝える。
- (3) 別室登校、保健室登校の児童生徒に対して授業の様子を配信する。
- (4) 学校行事等、学校や教室の様子を配信する。
- (5) 教室の自席にタブレットを置いて、授業やホームルームの様子を配信し、教室の雰囲気伝える。
- (6) 朝礼等での校長講話を、各教室に配信するのと同じように、保健室や別室にも配信する。
- (7) 宿題や学習用プリント等の配信 提出 添削 返却。 等

3 モデル校での調査研究 (R2第2回部会より)

(1) 実施要項(一部抜粋)

モデル校は、児童生徒の実情に応じた研究目標を設定し、不登校等の児童生徒への支援を行うに当たって、既存のICT環境に加え、徳島県GIGAスクール構想の推進で整備されるICT環境を活用することで、次のいずれかのうち2つ以上の内容を含む実践的な調査研究を行う。

- (ア) 児童生徒や保護者等とのコミュニケーションの活性化を図るICT活用
- (イ) 児童生徒の心のサポートを図るためのICT活用
- (ウ) 別室(保健室等)又は自宅や病院等の児童生徒に対するオンライン教育におけるICT活用
- (エ) ICTを活用した教材の作成及び児童生徒への提供方法、並びに個に応じた指導におけるICT活用

(2) モデル校での取組状況 (各校への聴き取り：6月末～7月上旬)

担任や養護教諭とWeb会議システムで繋ぎ、話をする機会をもつ
保健室や自宅への授業配信
学校行事等の保護者への配信
夏休みのタブレットの持ち帰りに向けての試行
全児童生徒への一斉送信 等

4 不登校児童生徒への支援の取組状況調査(10月中旬)

(1) 目的

ICTを活用した不登校等の児童生徒への支援の事例を収集・普及することで、従来から行ってきた不登校等の児童生徒への支援を更に充実させていくことを目的とする。

(2) 対象

県内全ての公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校

5 取組事例

	場面等	具体的な取組	成果	課題
1	別室	<ul style="list-style-type: none"> Web会議システムで学級と繋いで授業を実施。 ノートを取ったり、チャットやスタンプなどで担任の問いかけに反応したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当児童は、積極的に授業に参加。 級友らも一緒に授業を受けられることを喜んでいる。 休み時間には、級友がホスト端末の近くに集まり、コミュニケーションを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 端末や回線の問題。 通信の質の低下。 当該児童の登校時間が曖昧なため、規則的対応が困難。 他の不登校傾向の児童に対しての説明をどうすべきか。
	保健室	<ul style="list-style-type: none"> Web会議システムで学級と繋いで授業を実施。 他の教員が当該児童と同じ部屋でサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> サポートがあることでストレスが減り、登校出来るようになってきた。 本人・保護者ともにとっても良い反応。 様々な研修会や講習会で、この事例の紹介をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源ONでいつでも使用できるよう、日々のメンテナンスに苦労している。
	空き教室	<ul style="list-style-type: none"> Web会議システムで教室と繋ぎ、授業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段顔を合わせない級友と一緒に授業を受けることができ、楽しそうに授業に参加できた。 級友が、別室を訪れたり、数回だが、実際に教室に入って級友と一緒に授業を受けたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室にもタブレット端末を置く必要があるため、不登校生徒の意思確認が必要。 顔を見られたくないため、カメラとマイクをOFFにしている。そのため、生徒の反応が分かりづらく、授業が一方通行になる。
	教室等	<ul style="list-style-type: none"> リモートでの授業参加。 児童側のカメラとマイクはOFFにし、支援者がチャットで関わる。 授業を受けるだけでなく、学級の雰囲気も味わわせるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教室で授業を受けてもついていける、分かる」素地を培うことができている。 徐々に力と自信をつけて、教室で他の児童と一緒に活動する時間が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> リモートによる授業支援を行える職員の確保。 「このままずっとリモートによる学習活動でよい」と思われたいような手立て。 級友たちの理解をどう得るか。
		<ul style="list-style-type: none"> Webドリル教材を使用した学習。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着。 支援者や担任は、取り組んだ課題のデータを基に、今後の対応を検討することができる。 対応状況の共通理解で、他学年の指導にも活かしている。 データ等の共有による学習準備の時間短縮。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器やソフト（アプリ）の効果的な活用についての教材研究の時間確保。 スキルの高い教職員への過重負担。
	適	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の生中継や学級旗紹介・パフォーマンスをWeb会議システムで見られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の様子を事後に見られて大変好評だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。

分類	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4	ステップ 5	
(1) 基本的な操作等	(ア) アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	(イ) カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	(ウ) 文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
(2) 問題解決・探究における情報活用	(ア) 分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表示し、最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。 ・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	(イ) プレゼンテーション力	・ペイントアプリ（プログラミングアプリ）で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	(ウ) 情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	(エ) コミュニケーション力	・オンラインで、画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話し合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い、話し合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom, Classi, Zoomの共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話し合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
(3) 情報モラル・情報セキュリティ	(ア) 情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	(イ) 情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	(ウ) 危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせる適切に対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	(エ) 情報の取り扱い	・知らない人に個人情報を話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	(オ) 健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	(カ) 情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

ステップ 1・・・小学校低学年の発達段階を想定したもの
 ステップ 2・・・小学校中学年の発達段階を想定したもの
 ステップ 3・・・小学校高学年の発達段階を想定したもの

ステップ 4・・・中学校の発達段階を想定したもの
 ステップ 5・・・高校の発達段階を想定したもの